

『銀山街道』を活かした地域づくりフォーラム

主催：夢街道ルネサンス推進会議

平成23年3月5日（土）に『銀山街道』を活かした地域づくりフォーラムが広島県三次市の三次コミュニティセンターで開催されましたので、その概要についてご紹介します。

【フォーラム】

とき：平成23年3月5日（土）13：30～16：30

場所：三次コミュニティセンター

参加人数：約130名

【内 容】

（1）《基調講演》「世界遺産・石見銀山遺跡の街道～流通から交流へ～」

大國 晴雄（大田市教育委員会教育部長）

世界遺産に登録されている石見銀山遺跡の歴史と、世界遺産としての範囲について講演をいただきました。世界遺産としての石見銀山遺跡は、『探鉱』～『搬出』という銀の『流通』を含んだものであることから『街道』も含まれていること、世界遺産の範囲は可変的なものであり、将来、尾道・笠岡までの道も世界遺産の範囲に入る可能性を十分に持っていることをお話しいただきました。また、『銀山街道』は、歴史における銀の『流通』の道としてだけでなく、未来に繋がる『交流』の道としての基盤となり得ることを説明いただきました。



（2）《活動発表》「銀山街道の研究に取り組んで」

平島 彰喜／橋本 彩加（島根県立大学 井上厚史ゼミ学生）

中山間地域の活性化の研究の一環として行われている『銀山街道』をテーマとした研究について、これまでの取り組みを中心に発表していただきました。大学生と石見銀山の周辺で活動されているNPO団体等との横の繋がりを強化しようということで始めた『銀山街道わくわくサミット』や、『銀山街道フェア』の開催、これまでの研究報告を冊子にした『銀山街道資料集』の作成等の取り組みの紹介がありました。また、『銀山街道資料集』については、来年度、本として出版することが決まったという報告もいただきました。



（3）活動紹介マイクリレー

沿線市町・団体

島根県大田市から広島県尾道市へと繋がる『銀山街道』の沿線地域から、それぞれの地域において活動されている7つの団体・市町の代表の方より、活動の状況等について発表をしていただきました。かつて大田市の石見銀山で採掘された『銀』が、この『銀山街道』を通して尾道の積出港まで運ばれていった模様を、ステージ上で『銀』に見立てたマイクをリレーしていき再現し、全ての発表の終了後、沿線市町・団体の代表者が手を繋いで、このフォーラムを契機に『銀山街道』として連携して取り組んでいこうという決意が示されました。





石橋哲一郎氏

(大田市: 鞆の銀蔵(とものかなぐら))
 ・古民家を活用した宿泊施設や食堂、
 『伝馬船』での島巡りを行っている。
 ・今後、鞆から温泉津港までの『海から見た石見銀山』の展開を期待している。



岡本 信正氏

(世羅町: 2010銀しゃりツアー実行委員会)
 ・昨年、世羅米のPRも含め『銀』に
 因んで『銀しゃりを運ぼうツアー』を
 実施した。
 ・電動アシスト自転車で石見銀山から
 尾道市まで走るイベントを行いたい。
 ・『銀山街道シンポジウム』の開催を考
 えており、皆様の協力をお願いしたい。



林 栄毅氏

(美郷町: 銀山街道を護る(まもる)会)
 ・『銀山街道やなしお坂』の草刈り、ガ
 イドや資料収集を行っている。
 ・出てきた資料をもとに資料館を造る
 話が町で進んでおり、実現を期待し、
 活動をしていきたい。



福崎 裕夫氏

(府中市: 銀山街道上下宿(じょうすゆく))
 ・『上下歳時記』として、年間を通して
 様々なイベントを行っている。
 ・地域の中で生産、加工、消費を行っ
 ていく『ローカルイズム』の活動を行っ
 ている。それぞれの地域が独特色を出
 して、自地域の中で経済まで含めた活
 動をすべきである。



安原 征治氏

(飯南町: 銀山街道を訪ねる会)
 ・『赤名峠』の復元に向け、朽ちた道標
 を新たに作り直した。また、銀山街道
 をウォークする大会を年1回開催。
 ・銀山街道のマップや資料を活かした
 活動を展開していきたい。



貞重 裕樹氏

(尾道市: 尾道市産業部観光課)
 ・最近、サイクリングルートとして
 の『しまなみ海道』としての取り組み
 も行っている。
 ・地域住民のアイディアやアイデンテ
 ィティを尊重し、支援していくことで、
 様々な課題に対応していきたい。



井上 峰晴氏

(三次市: 三次町歴みち協議会)
 ・平成 11 年に協議会を発足し、家屋
 の修景や石畳舗装等の住環境整備、商
 業の活性化に取り組んでいる。
 ・三次町の歴史・文化等を活用して活
 性化に繋げる活動を、今後も頑張って
 行っていきたい。

(4) パネルディスカッション「銀山街道を活かした地域づくり」

パネリスト 小田博之 (NPO 法人ひろしまね)

大國晴雄 (大田市教育委員会)

栗田澄子 (石州街道出口通り)

加藤慈然 (尾道観光協会)

コーディネーター 小島光治 (夢街道ルネサンス推進会議委員)

各地域でリーダーシップを発揮して活動をしているパネラーの皆さんから、『銀山街道』を活かした地域づくりを進めていく上での広域連携の必要性、また、広域連携を支援する中間組織(事務局)が必要であることや活動にあたっての資金作りなどの課題が提示されました。また、銀山から尾道・笠岡を飛脚で繋いでいって『24 時間テレビ』でPRしていってはどうかという広域に連携した具体的な取り組みの提案や、住民サイドでの連携としては、『みんなで稼ごう2万円』といった分かりやすい目標を立てて、出来ることから徐々にやっていくと言う身の丈にあった連携スタイルが重要だというアドバイスもありました。また、会場席の飯南町、三次市、広島県、島根県の担当職員の方から行政の支援策についての意見もいただき、官民が力をあわせて『銀山街道』を活かした広域連携を目指して頑張っていくことが確認されました。



■パネリストの皆様の主な意見



小田博之氏 (NPO 法人ひろしまね)

- ・『点から輪をつくる』ことが大事。ただし、銀山街道沿線の殆どが中山間地域であり高齢化という問題に直面しており、自分たちの地域だけで精一杯の状況。広域的に連携していくためには、それを支援する中間組織が必要で、人を迎え入れるビジターセンターやガイドの仕組みが必要である。
- ・『銀の道』を活かした活性化に向け、まず民間サイドで連携して取り組んでいく方が良い。そのためには、まずアクションプラン（行動計画）をみんなで立てていくことが必要である。
- ・住民・民間サイドで連携して取り組んでいく場合、『みんなで稼ごう2万円』と言った具体的で分かりやすい目標を設定して、やれることから少しずつやっていくと言う身の丈にあった連携スタイルで取り組んだ方が良い。



大國晴雄氏 (大田市教育委員会)

- ・観光の最大のテーマは『そこに暮らす人の暮らしぶりを見る』ということ。尾道、笠岡に向かうルートには、良い関係の暮らしぶりが垣間見え、親しむことが出来る、体験することが出来るという非常に良い地域である。
- ・民間の皆さんの活動には大きな力がある。行政は、民間の皆さんが考えていることがらを、どうやって下支えするかを考えていかないとけない。
- ・銀山街道の広域的な連携を行うための資金づくりのヒントとして、民間の皆さんで3万円集めたら、もう3万円を県・市町で応援していくという仕組みを考えてみたらどうか。
- ・石見銀山は、銀山街道からしまなみ海道を突き抜け、海を渡って海外に行くというだけのものを持っている。胸を張って『銀山街道』としての取り組みに、皆さんと一緒に頑張っていきたい。



棗田澄子氏 (石州街道出口通り)

- ・石州街道出口通りの活動を通して、人と人の連携がすごく大切で、また、そのことに非常に魅力があると感じている。
- ・活動のための資金が無いということは非常に大変なことであり、課題であるが、連携してやっていくことで、皆さんからのアドバイスも得られると思う。
- ・銀山から尾道・笠岡を飛脚で繋いでいき、府中市の『お祭り広場』で沿線の市町や道の駅等の特産品を販売し、そこに飛脚便が帰ってくるという取り組みを『24 時間テレビ』の中でやってもらうという企画を考えている。皆さんと一緒にやっていく最初の取り組みとして、各市町の方々には、是非とも協力をお願いしたい。



加藤慈然氏 (尾道観光協会)

- ・地域の人や学生と一緒に歩いて街道マップを作ろうと取り組んでいる。この情報を道の駅『クロスロードみつぎ』で提供し、そこからウォーキング・サイクリングで巡ることが出来るような仕組み作りをこれから行っていく。
- ・『銀山 (街道)』というきっかけで多様な人の繋がりが出来るような場を持てただけるとありがたい。インターネットの地域 SNS の活動も行っているが、必ず年に1度は顔をあわせている。これにより人、物、金、情報の流れプラス『友情』が生まれ、この人の繋がりを大事にして地域づくりをしていこうとしている。
- ・今後、鍵となるのは食や人、特に若い人を取り込むこと。島根県立大学の皆さんとも交流をしながら、お互いの資源を活かし頑張っていきたい。

■会場からの意見



塚原 隆昭氏 (飯南町企画財政課)

- ・飯南町は尾道松江線が通らないことから、『飯南町 54 号活性化アクションプラン』を策定し、取り組んでいる。
- ・このプランと『銀山街道』との連携を組み合わせ取り組みを進めていきたい。
- ・道の駅での情報発信も強化していく。



栢 英彦氏 (広島県道路企画課)

- ・『瀬戸内海の道構想』の一般公募事業として『銀のロマン海道推進事業』を実施している。
- ・『海の道』と『銀の道』の連携を更に深めていき、活動に対する支援をしていきたい。



山本 直樹氏 (三次市企画調整課)

- ・尾道松江線の供用開始も睨み、『地域戦略プラン』を策定した。
- ・今後、寄り道ではなく、三次市や銀山街道沿線地域が目的地となるよう、『三次歴みち協議会』を中心とした活性化を図っていきたい。



山崎 泰助氏 (島根県道路維持課)

- ・社会資本整備総合交付金に加え、ソフト的な面での支援メニューも県・市町にはあるので、相談して欲しい。